

茨城町特産品のパッケージデザイン支援

【相手先企業】

茨城町商工会

【目的】

茨城町の耕地面積は 5,480ha と県内第 3 位にあるが、農産物を通年で流通させることは難しく、町商工会では「新鮮な茨城町の産物に付加価値を付け、一年を通して味わってもらおう」ことを目的に特産品開発事業を行っている。

これら特産品開発の商品化に際し、コピー設計、グラフィック処理等パッケージデザイン支援を行った。

【内容】

茨城町特産品として推奨マーク、栗の渋皮煮、ヤーコン酢漬け、潤沼しじみ、殻付きぎんなんのイメージ形成を行った。「自然環境」や「故郷」をコンセプトとし、「食材としての手軽さ」「食料品としての安心さ」が強調されるようデザインした。商品ロゴは文字の読みやすさを重要視し、配色は素材色を基本とし、全体的にシンプルさを表現した。

【成果】

これらの成果品は各地のイベントで PR され、町内はもとより全国への販売が計画されている。特にヤーコン酢漬けは「ニッポン全国むらおこし展（池袋）」で人気を博すなど、珍しい食品として注目されている。

また、ギンナンは農地の有効利用として平成 3 年度から作付けされ、今後は愛知県や大分県に次ぐ生産地として消費拡大を狙っている。



基礎となった事業：オンリーワン技術支援事業（新ブランド創造研究会）

担当部署：デザイン開発部